

“靈”が語らせるままに

使徒言行録 2 : 1 - 11



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年5月20日

聖霊降臨日

奈良基督教会にて

「2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、
2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼
らが座っていた家中に響いた。3 そして、炎のような舌が分
かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4 すると、
一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々
の言葉で話した。」使徒言行録 2:1-4

およそ 2000 年前の今頃の季節の日曜日、今聞いたこのような出来事が起こりました。聖霊降臨です。これがなければ教会は誕生せず、福音は伝えられず、この教会もなく、わたしたちもイエス・キリストを知り、また信じることも起こらなかったのです。逆に言えば、この聖霊降臨の出来事が起こったから、わたしたちはここでこうして礼拝する者となったのです。

教会が、またわたしたちが生き生きと生きるためには、この最初の聖霊降臨の出来事の記憶がよみがえって、それが今のわたしたちの力となり命となる。それが大事です。そこで今日は、この日何が起こったのかをあらためて確かめてみたいと思います。

主イエスの弟子たちは集まって祈っていました。およそ 120 人。彼らは 10 日前、イエスを天に送りました。この人たちには、共にささげるひとつの祈りがありました。それは「聖霊を

送ってください」という祈りです。それはイエスが繰り返し約束し、繰り返しそれを待ち望んで祈り求めるようにと言われたからです。

先週、昇天後主日の礼拝の最後、退堂聖歌は 187 番でした。

「父の家に 昇りゆきて ほめうたの中にいます主よ

罪の重荷 負える者に 誓いの聖霊 降くだしたまえ」

わたしたちは重荷を負って苦しんでいますので、どうかイエスさま、約束された聖霊を降くだしてください。聖霊を送ってください。

これが、主イエスを天に送った最初の弟子たちの一番大事な祈り、共通の祈りでした。もちろん 120 人いたとすれば、それぞれが違った重荷、違った悩み、違った祈りを携えています。しかし聖霊と一緒に求めることを、皆が第 1 にして集まっていたのです。

この祈りを、わたしたちも回復したいと願います。

たとえば、礼拝の前に 10 人が、20 人が、「この教会に、このわたしたちに聖霊を注いでください」と切に祈るなら、何かが大きく変化するでしょう。

さてこの 2000 年前の聖霊降臨の日、礼拝している中で人々が一緒に経験したのは何だったのでしょうか。大きく三つあります。激しい風、天からの音、そして燃える炎の経験です。これをわ

たしたちは遠い昔の超自然的体験、神秘体験として遠ざけてしまっ
てはなりません。その経験の中身が問題です。

人々が経験したのは、「激しい風」。言い換えれば神さまの息吹を受
けた。窒息しそうな状態から息を吹き返したのです。「天からの音」。
わたしたちを支配する世間の声、人と自分を気にする地上の声から解
放する、美しい天の声を聞いたのです。「燃える炎」。燃える神の愛
の火に触れて熱くされ、心を焼かれたのです。これが聖霊降臨の体
験です。

それで何と言われていたのでしょうか。

「4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

皆が聖霊に満たされた。聖霊がなければ、別のものに満たされ、
支配されている。しかし聖霊に満たされたら、もはや恐れも、卑下
も、虚栄心も自己顕示もありません。神の愛と命が満ちて、神が言
わば人の中心、人の主体となっておられるのです。すると今まで経
験したことのないことが起こりました。

「“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

聖霊が言葉を与える。神の霊が語らせる。外国語をよく学んだとい
う人たちではないのに、ほかの国々の言葉を語り、それが通じていく
のです。外から集まって来た大勢の人々は驚いて

います。

「2:7 人々は驚き怪しんで言った。『話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。』」

ガリラヤの田舎者たち——多くの人たちはそう思ったでしょう——が、どうして世界各地から集まって来た自分たちの故郷の言葉を話せるのだろうか。これは不思議なことで、なぜだかわかりません。ただそれより大事なことは、言葉の壁を越えて、もっとも大切な事柄が伝わって行った。コミュニケーションが成立したということです。

人々の反応を聞きましょう。いろんなどころから来たいろいろな人たちがいるのに——

「11 彼ら〔弟子たち〕がわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

伝わるはずがないのに、伝わっているのです。弟子たちが語っている内容がはっきりわかる。心に入ってくる。

「かれらは神の偉大な業を語っている」。

弟子たちが語って、伝わってきて彼らの心に驚きをもたらしたのは「神の偉大な業」です。「神の偉大な業」とは、イエス・キリストの十字架と復活です。イエスは罪なくして捕らえられ、不当に殺された。しかしその死と復活によって、イエスは人と

この世から罪と死と滅びを取り去られた。人を愛して救おうとされる神の愛がここに燃えている。

この日、「神の偉大な業」について、ペテロが外に出て説教しました。反発しあざける人たちもいました。しかし聖霊が語らせたので、「**“霊”が語らせるままに**」語ったので、イエスこそが自分と世界を救う方であると信じて、洗礼を受けて仲間に加わった人たちが、その日 3000 人ほどもいたと言われます。それはペテロの人間的な能力のせいではありません。聖霊が、彼に言葉と命を与えて語らせたのです。

聖霊降臨日の出来事を今日はお話ししました。聖霊はわたしたちにも注がれ、受け継がれています。わたしたちは聖霊降臨の教会の子孫なのです。

けれどもわたしたちはもっと聖霊を知りたい。もっと聖霊を経験したい。最初の教会に燃えていた神の愛と、イエス・キリストを知ることの喜びと、福音が人に伝わって行くことの驚きと感動を、もっと体験したい。わたしたちもささやかではあっても、「**“霊”が語らせ**」てくださって、神さまの口となって「神の偉大な業」を伝えたい。そうであってこそ、わたしたちはひとりひとりとして、また教会として、喜びをもって意味ある生き方をすることができます。

祈ります。

神さま、主イエスが約束された聖霊をわたしたちも祈り求めます。聖霊の風がわたしたちにも吹き込むように祈り求めます。地上の音ではなく、天の音を聞くことができるように、そのゆえに虐げられた人の声を聞くことができるように、祈り求めます。神の愛の火がわたしたちを清め、熱くし、わたしたちを燃やしてくださるように、切にお祈りします。そうして、わたしたちをとおしても、神さまの救いの業が伝わって行くようにしてください。主イエス・キリストによって。アーメン